地域密着型サービス事業者　自己評価表

（　認知症対応型共同生活介護事業所　・　小規模多機能型居宅介護事業所　）

事　業　者　名	グループホーム　ゆうあい　（平成）	評 価 実 施 年 月 日	平成20年10月
評価実施構成員氏名	井上　伊藤　寺田　北川　原田　小林		
記　録　者　氏　名	井上　純代	記　録　年　月　日	平成20年10月23日

北　海　道

は外部評価項目

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 １．理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	作り上げている。	○	施設開放等で交流し、その人らしく暮らせる様支えている。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を共有し取り組んでいる。	○	入居者や家族の願いを尊重し、笑顔で環境作りが出来る様心がけている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や町内会、公共施設等に説明している。	○	家族は理解しているが、地域の方には理解されていない様である。
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	商店の利用、他のグループホームとの交流、日々の挨拶を気軽にし努めている。		町内清掃への参加、コミュニティセンターの利用、町内総会への出席、夏祭りへの参加を呼びかけている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	総会、清掃活動へ参加している。	○	地域との交流を深めグループホームへの理解を強めていきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ボランティアの受け入れや夏祭りへの参加を呼びかけている。		ボランティア受け入れ、夏祭り参加、入浴開放デー等で地域への貢献を図っている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価後、話し合いをしたり改善する様に取り組んでいる。	○	評価後の改善を職員全員に理解し取り組んでもらう。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、町内、地域包括、民生委員、家族の方々にも参加していただき、サービスの向上に活かしている。	○	地域住民へ理解と協力を呼びかけていく必要がある。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	指導や連携を図りながら、日々、向上に取り組んでいるが、市町村担当者が出向いて来る事はない。		市町村の指導に基づきながら受容に答えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は学んでいるが、職員は、研修等に参加出来ていない。	○	勉強会等で職員全員が学ぶ機会を作りたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	外部の勉強会、施設内の勉強会等に参加し、言動等は誤解を招かない様に状態変化に注意している。		特に身体観察に注意し、サービス内容は統一している。
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	十分な説明をし、理解を得ている。		今までトラブルは起きていない。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情を受け入れ改善している。		その都度対応はなされている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	インターネットや手作り新聞などで開示している。		好評である。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見を受け入れ反映している。		受診、入院中の対応。お見舞い等の洗濯等。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者が、直接意見や提案を聞く機会を設け、必要に応じて反映させている。		その都度対応。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応に努め勤務調整を行っている。		管理者と職員が対応している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	最小限に抑える努力はしている。利用者へのダメージ防止には配慮している。		普段から他のユニットに行き、馴染みになる様にしている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に参加したり取り組みをしている。		民介協等の勉強会を活用している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣の方々や町内会などに訪問したり、夏祭りへの誘いをしている。		民介協のレベルアップ研修に参加している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	有給を利用したりで、リフレッシュを配る様に取り組んでいる。		個別に傾聴している。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	努めている。		努力、実績、勤務状況を把握し評価している。
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	している。		繰り返し話す事へも傾聴している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	いる。		傾聴する機会をつくり受け止めている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。		その都度対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	工夫している。		納得後、ならし利用をしている。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支えあう関係作りをしている。		出来ない所だけ援助し、一緒に喜怒哀楽を共にしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に関係作りをしている。		いつでも、何時でも面会していただいて、日々の様子等を説明し、共に支え合って行きたい事を説明している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	いる。		支援により相方に良い関係が出来ている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所への支援は出来ていない。		家族の協力で可能になると思われる。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員で全員揃って食事、お茶、おやつを摂取する。利用者全員に声掛けして体操、レクを促す。	○	10時コーヒータイム、15時おやつ、、おやつ後の体操、レクレーション実行。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	いる。	○	入院時から1ヶ月までは、断ち切らない様に説明している。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ホームにて、どのような生活をしたいのかを聞き、生活をしやすい環境作りをする。	○	ケアプラン作成時や定期的に利用者の希望、意向を聞き、把握し対応している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各利用者のライフヒストリーを参考にしてコミュニケーションを取る。毎日記録している。	○	本人や家族から情報を聞き、今までの生活の継続に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活（暮らし）アセスメントシートに細かく利用者の行動、状態、訴えを記入して把握するよりに認めている。	○	その都度、現状を把握し、一人一人に合った生活が出来る様にしている。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	スタッフのミーティング時に話し合いを行なう。気になる事がある時は、スタッフ間で話し合いを行なう。	○	本人の意向を優先して、出来ている事の継続に向けて作成している。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しの有る場合は速やかに介護計画の見直しや介護認定の見直しの手続きを速やかに実行している。		日々、変化する事では計画見直しをしていない。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、記入し、アセスメントシートを活用して介護計画を作成している。	○	実践結果、気づき工夫を記録して情報を共有し、計画の見直しに生かしていく。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	していると思われる。	○	計画に基づいて柔軟な支援が必要である。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	囲碁が好きな利用者が居るので、ボランティアの方々と囲碁を楽しまれる。		ボランティアの方と囲碁を楽しまれている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	している。		デイサービスや自立支援に向けての必要性に応じて話し合っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	定期往診と長年通院されているかかりつけの病院に通院。		往診の先生を心待ちにしている利用者がいる。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に一度、訪問看護が来設。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院後のケアを、病院、訪問看護と相談する。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	病院関係者と家族との話し合い、ケアを行う。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	スタッフ同士でミーティングを聞き話し合いを行なう。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族との情報交換を行い、本人にとって一番良い方法がとれるように支援している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	記録や個人情報が記載されているものは、人目につかない所で保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ケアプランに希望。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	それぞれのレベルに合わせた対応をとり、一人一人のペースを大切にする様に支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に理美容師が訪問し、カットやカラーを行なっている。行きつけの美容室がある方は家族の方と一緒に行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の体調に合わせ、盛り付けや食器拭きをして頂いている。	○	食中毒等の問題があるので、一緒にできる事が少なくなってきている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	家族からの差し入れ物はこちらで預かり、希望の時に出したり自己管理できる方はして頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、リハビリパンツから布パンツへの切り替えたり、トイレ誘導の声掛けを行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調や本人の希望に合わせ入浴している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠れない時は、少し会話をしたり、テレビを見て頂き、自然に安心して眠れる様に支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来る範囲でタオルたたみや食器拭き、体操、レクを楽しんだり行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	こちらで預かり、保管、管理している。		行事のお祭りの時は、利用者さんにお金を渡し、見守りにて使って頂いている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホームの周りを散歩する等、天候や体調に合わせて行っている。	○	出掛けられる回数を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	公園散策や外食する等、出掛けられる機会をつくっている。	○	これからも外出の機会を多くしたいと思っています。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使っていただき、届いた郵便物は本人へ渡している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	行事の時は、家族に声掛け、招待している。	○	これからも、いつでも家族の方が訪問できる様にしていきたい。
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠していない。		全職員が、利用者の行動を把握し、外出する行動がある時は、一緒に出掛けたり、見守りをしている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期的に訪室、声掛け等を行っている。		定期的に訪室、声掛けを行っている。
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	廊下に必要なもの以外は置かない様にしているが、歩行途中、休憩出来る様、椅子を置いている。		廊下に必要な物以外は置かないようにしているが、歩行途中、休憩できるように、椅子を置いている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的に救急救命講習会を消防署の方を招き行っている。		定期的に救急救命講習会を消防署の方を招き行っている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に救急救命講習会を消防署の方を招き行っている。		定期的に救急救命講習会を消防署の方を招き行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に消防署の方を招き、避難訓練を行っている。近くのグループホームやコンビニとも交流をもっている。		定期的に消防署の方を招き、避難訓練を行っている。近くのグループホームやコンビニとも交流をもっている。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	話し合いを十分している。	○	議事、記録等に残し、今後も対応も一緒に考えて行く。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、決まった時間にバイタルチェックを行い、かつ歩行等の身体観察をして、主治医と連携をとっている。		水分量、食事摂取量、排泄状態を全員が把握し対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医からの情報や処方箋を把握した事を共有し、様子観察に務めている。	○	症状、変化は個人差があるので、全員で気を付ける。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日、体操や階段昇降等を行っている。昼食時には、毎食果物を付け、野菜を多く摂取するようメニューを決めている。	○	水分量も把握し、個々のペースに合わせ摂取出来る様に取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	定期的に歯科衛生士の指導を受けている。		毎食後、歯科医の指導のもと、出来ないところだけ職員が援助している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人に合った水分量や食事量を考え行っている。	○	栄養バランスと好物にも気配りをする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	医療と連携を取りながら、施設内感染予防にあたっている。		施設内に入る時は、全員手洗い、うがいを行っている。汚物等扱う際、グローブを付け消毒を行なう。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎晩、消毒を実施し取り組んでいる。		手洗いを細めにする。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇や家庭菜園を入居者と共に実施し、取り組んでいる。		継続したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースには、季節ごとに壁画を取り入れたり、行事等の写真の展示を実施し取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に長椅子を置き、談話スペースを確保し工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いなれた家財道具を持参して頂き、居心地よく工夫している。		
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に気になる臭い等は、細めに窓の開閉を心かけ行っている。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを設置。床をバリアフリーにし、安定した歩行が出来る様工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ケアプランにそって、スタッフとの連携をとり、一人ひとりが出来事を一緒に取り組み、達成感を得られる様工夫している。	○	家族とのコミュニケーションをとり、利用者の思いを取り入れ工夫していきたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や家庭菜園を実施し取り組んでいる。	○	継続したい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目

	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	ケアプランに基づき、思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	１日に、何度かゆっくりと過ごせる場面もあり、積極的にコミュニケーションに心かけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	１人１人のペースに合わせて、無理なく生活出来ている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	普段から職員とのコミュニケーション、レク等で良い表情を見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	本人の意向、ケアプランに基づき、家族の協力もあって定期的に外出している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	定期的に往診、受診を行い、何かあった場合も管理者、医師との連携をとり、不安なく過ごせる様にしている。
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	状況や要望に応じた支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	家族からの話があれば相談に応じている。今のところは、信頼関係には問題はない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	近隣のグループホームなどに声掛けしている。知人等の面会もある。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	近隣の施設、グループホーム、町内会等への声掛け、呼びかけはしている。
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	何か問題が生じた場合は、職員間で話し合いの場を設け、解決に取り組んでいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	サービスに満足していただける様、利用者の要望に応え、定期的に、職員間で話し合いの場を持ち、満足出来る様努力している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	面会の時など、何か要望があったら、満足していただく様努力している。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載）